

アジアの歴史と伝統文化

History and Traditional Cultures of Asia

文学学術院提供副専攻

設置概要

「アジアの歴史と伝統文化」副専攻では、中国を中心として、朝鮮半島、さらには周辺地域も含めた「東アジア地域」の歴史と文化を専門的に学習します。近年、東アジアと日本とのかかわりは、ますますその重要性を高めています。本副専攻は、史料にもとづいて歴史的に物事を見る目を養い、日本と東アジア世界との間に現実に起こっていることを正しく把握し、考える力を持った学生を育てることを目指しています。

歴史研究は、まず史料の解読、批判からはじめなければなりません。本副専攻が対象とする領域の関係史料は、漢文、朝鮮文、モンゴル文、満洲文、チベット文、サンスクリット文、トルコ文、ペルシア文、アラビア文等、極めて多岐にわたっていますが、本副専攻はとくに東アジアのほとんど全域に関し、もっとも豊富に史料を残している漢文テキストを主として、史料批判を訓練します。史料批判の訓練は、同時に、歴史的思考法の修練である。そのようにして体得した技術により、各自の個別研究を深め、それによって新しい世界をひらいて行くことを、本副専攻の教育方針としています。

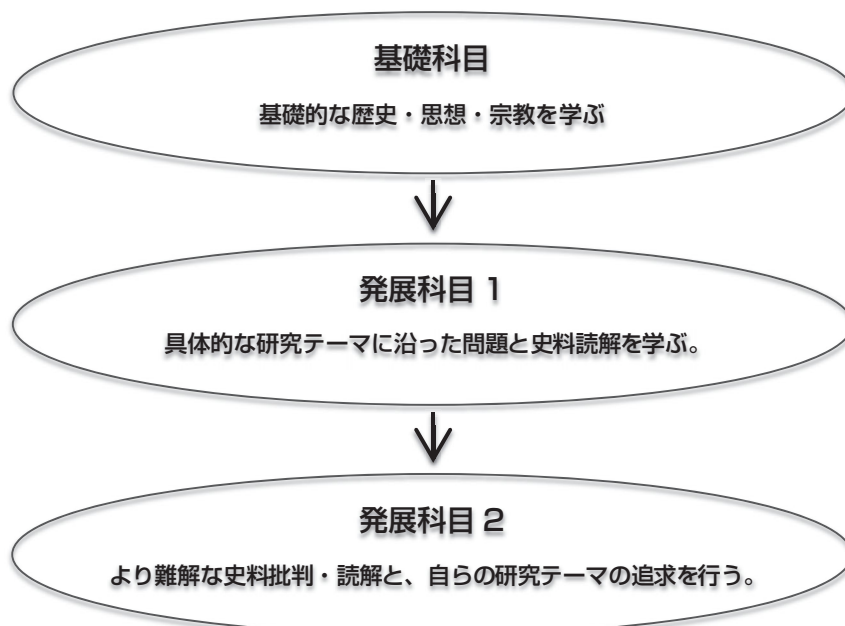
史料解読と東アジア地域の多様な歴史経験を理解する視野を培うなかで、本副専攻では、アジア諸民族の歴史と文化の学習・研究によって、それぞれの民族がもつ固有な価値体系を究明し、多元的な価値認識を基礎とした統一ある世界史像を構成することを志向しています。明日の社会に生き、明日の社会を担って行くべき者は、そのような、より高次元な世界史像をもつものでなければならないからです。

到達点（学習成果）

中国や朝鮮半島を中心とする東アジアと日本とのかかわりは、ますますその重要性を高めています。本副専攻は、史料にもとづいて歴史的に物事を見る眼を養い、日本と東アジア世界との間に現実に起こっていることを正しく把握し、考える力を持った学生を育てることを目指しています。中国・朝鮮の歴史研究においては、これまでに伝わる文献史料のほか新たに出土した木簡・竹簡・石碑などの文字資料を組み合わせ、考古学的な視点をも導入した新領域の開拓に力を注いでいます。一例として、「フィールド歴史学」がそれにあたります。

後期伝統中国史（前近代史）においては、東アジア全体を視野に入れ、社会史・文化史など多様な観点を取り入れて新しい歴史像を追究します。辛亥革命後の中国やアジア地域の近現代史をも考察の対象としています。他方、朝鮮史では、中国大陸や日本列島との関連を重視した東アジア史における展開とその位置づけに注目します。

カリキュラムマップ



指定科目一覧

修了必要単位

16単位（基礎科目：8単位、発展科目1：4単位、発展科目2：4単位）以上

注意事項

2017年度以降文化構想学部・文学部入学生は、文化構想学部・文学部副専攻（「アジアの歴史と伝統文化」）を履修してください。
2016年度以前文化構想学部・文学部入学生（2017年度入学の転部入学者、2017年度・2018年度入学の学士入学者を含む）は、本副専攻（GEC設置）を履修してください。

再入学者は、2016年度以前要項適用の場合は本副専攻（GEC設置）を履修し、2017年度以降要項適用の場合は文化構想学部・文学部副専攻を履修してください。要項適用年度について不明な場合は、文学学術院事務所までお問い合わせください。

★基礎科目

修了必要単位：8単位

No	設置箇所	科目名	担当教員名	配当年次	学期	曜日時限	キャンパス	単位	備考
1	政経	地域文化研究（東アジア）01	平林 宣和 他	2年以上	春学期	木3時限	早稲田	2	
2	社会学	漢字文化圏論 1	笹原 宏之	1年以上	春学期	火5時限	早稲田	2	
3	社会学	漢字文化圏論 2	笹原 宏之	1年以上	秋学期	木2時限	早稲田	2	
4	文構	アジアの地域・都市の歴史	清水 美里	2年以上	秋学期	フルオン デマント	戸山	2	
6	文	仏教概論	山部 能宣	2年以上	春学期	金2時限	戸山	2	
7	文	儒教概論	渡邊 義浩	2年以上	春学期	月3時限	戸山	2	
8	文	道教概論	森 由利亚	2年以上	秋学期	土2時限	戸山	2	
9	文	アジア史概論1	飯山 知保 他	2年以上	春学期	金2時限	戸山	2	自学部優先科目
10	文	アジア史概論2	柳澤 明 他	2年以上	秋学期	フルオン デマント	戸山	2	自学部優先科目
11	文	アジア史学発達史1	佐川 英治	1年以上	春学期	水1時限	戸山	2	
12	文	アジア考古学交流	城倉 正祥	2年以上	春学期	火1時限	戸山	2	

★発展科目1

修了必要単位：4単位

No	設置箇所	科目名	担当教員名	配当年次	学期	曜日時限	キャンパス	単位	備考
1	文構	アジア地域社会論	荒井 幸康	2年以上	春学期	月3時限	戸山	2	自学部優先科目
2	文	フィールド歴史学（東アジア）	飯山 知保 他	2年以上	秋学期	金3時限	戸山	2	自学部優先科目
3	文	朝鮮近現代史	三ツ井 崇	2年以上	秋学期	金2時限	戸山	2	自学部優先科目
4	文	東南アジア史	柿崎 一郎	2年以上	春学期	木1時限	戸山	2	自学部優先科目

★発展科目2

修了必要単位：4単位

No	設置箇所	科目名	担当教員名	配当年次	学期	曜日時限	キャンパス	単位	備考
1	文	アジア史特殊講義1（中国古代史）	柿沼 陽平	2年以上	秋学期	フルオン デマント	戸山	2	自学部優先科目
2	文	アジア史特殊講義2（朝鮮前近代史）	李 成市	2年以上	春学期	火2時限	戸山	2	自学部優先科目
3	文	アジア史特殊講義3（中国前近代史）	飯山 知保	2年以上	春学期	月2時限	戸山	2	自学部優先科目
4	文	アジア史特殊講義4（東アジア近現代史）	柳澤 明	2年以上	秋学期	木4時限	戸山	2	自学部優先科目

履修を希望する学生へのメッセージ

東アジア地域に横たわるさまざまな問題について、それがなぜ起こったのかという問題意識を持ってアジアの歴史と伝統文化を学んでください。歴史学は、過去と現在をつなぐ非常に面白い学問です。単に過去の失われたものをいつくしむのが歴史学ではありません。また、過去の止まった一点だけをじっと見る学問でもありません。われわれが目指すのは、過去が現在にどう結びつくのか、その接点を見出し、それを現代の問題を理解し、解決するための糧とする学問です。たとえば、前近代の史料に記されていることが、実は脈々と現在にまで受け継がれている、それを知ること、現今の問題を立体的に捉えることができるのです。

日本と中国や朝鮮半島との間で現在起こっている問題についても、単純に、感情的に見ているだけでは偏狭なナショナリズムしか生み出しません。また、中国・台湾や韓国といった、東アジア地域の諸国家の現状を理解し、自らの考えをもってそれらの将来的な動向を捉えてゆくためには、歴史的な分析能力が不可欠です。歴史学を通して、物事を複合的な視点から解釈する方法を学びましょう。

また、本副専攻の母体であるアジア史コースでは、これまで新しいアジア学の創生や資料のデジタル化などのプロジェクトを通じ、新たな歴史学の構築に向けて積極的に取り組んできました。本副専攻のカリキュラムには、上記のような基本方針を踏まえつつ、そうした学術成果が最大限に盛り込まれています。さらに長い伝統を有する東洋史学の蓄積を反映させ、東アジアの歴史を風土や地理とのかかわりから構造的・立体的に捉えることができる構成となっています。